

まちづくりトーク 「かみふの未来を 語り合おう」



10月24日(水)、町長と町民が意見交換を行う「まちづくりトーク」が保健福祉総合センターかみふで開催され、30人が参加しました。

第6次上富良野町総合計画「かみふ未来ビジョン」前期基本計画の策定にあたり「かみふの未来を語り合おう」をテーマに行われました。

前半は、企画商工観光課より計画の概要として、町の特性や資源の再確認のほか、中学生、高校生と町民を対象に実施したアンケートの結果とそこから見えてきた、めざすべきまちづくりの方向性を説明。後半は参加者との意見交換と質疑応答を行いました。

参加者からの質問など

意見

北海道胆振東部地震発生の際の迅速な避難所の開設と、高齢者への対応を評価したい。日ごろから町民の目線に立った町政運営の成果。今後も町民の生活に密着した対応を続けてほしい。

質問

地域の独自性を出すことが、町を発展させるポイントになると思う。総合計画ではどこに重点を置くのか？

回答

策定に向けて町の資源を深掘りしてきた。現在、取り組んでいる十勝岳ジオパーク構想では教育への活用や観光・経済振興といった複数の分野が連携して取り組むなど、特徴的な施策も盛り込んでいる。

質問

今後、人口減少が予想される中で、他市町村とは子どもの医療費無料化の取り組みに差があるなど、さらに人口流出が進む懸念があるが、対策を伺いたい。

回答

子どもの医療費無料化は議論し、少しずつ充実している。妊娠から子どもが成人するまで、どのような部分に支援が必要なのか、町で支援する部分、親が果たす役割、地域で支える部分を整理しながら子育て施策を進めたい。



町民の質問に答える向山富夫町長

質問

町に住む子どもが10年後どのような大人になってほしいと考えているか？

回答

強い人間になっていただきたい。全ての基本は家庭にあると考えており、子どもたちが健全に育つ家庭環境を町の責任において整えていきたい。

教育では、授業を受け身の形からグループ討議など主体的に学ぶ形へなるよう進めている。直感力・想像力と理論的に人を説得する力を身に付けさせたい。

質問

町には目玉(セールスポイント)と言えるものが無い。町の目玉を作るにはどのような人材が必要で、どう育成していくのか伺いたい。

回答

さまざまな場面で活躍する人材が重要と認識しており、異業種の方たちが集い、学び場として人材育成アカデミーを開催している。町が起業などのきっかけづくりとして、環境を整える施策を総合計画に盛り込んでいきたい。

質問

福祉が整っていることが安心できる町であると思う。健診の受診率が高いことも大事だが、何かあったときに町が手助けできる体制か？

回答

障がいなどのハンディキャップを背負ったときのため、福祉分野では一定程度のサービスを整えているが、状況に応じてメニューの拡充や見直しを行ってきたい。

質問

総合計画の期間中に、全町民をあげて魅力ある上富良野を作るため、世代や職種を超えて、話し合う場を設けたら良いのでは？

回答

行政側が一方的に話すのではなく、意見が出し合える場を整えていきたい。

問合せ 町民生活課自治推進班

☎69885

企画商工観光課企画政策班

☎69994